

「フォトンファクトリー新体制発足記念講演会～PF REBORN 2019～」の報告から始めたいと思います。この講演会は、現在を放射光の第二黎明期ととらえ、関係者が一堂に会して、第二黎明期を牽引するための構想をブラッシュアップすることを目的に、7月20日に開催されました。当日は、PFの黎明期を支えた世代から若手まで、100名を超える参加があり、放射光学術基盤ネットワークを形成するUVSORとHiSORの代表、PF-UAの会長より、それぞれ、PFへの期待の言葉を頂きました。私からは、黎明期を特徴づける開発研究を重視して世界を先導する新技術と人材を供給すること、および、先端基盤施設として引き続き多様な利用研究を支えることがPFの使命であり、その遂行のための将来計画の方向性として、『光源性能の先端性追求において、輝度偏重から脱却し、FlexibilityとStabilityの両立による許容度の重視に転換する。許容度の向上は、ビームラインで展開される実験手法の多様性に直結する。これにより、新しい実験手法を模索し（第二黎明期の開発研究）、「研究者の知的探究心や自由な発想に基づき自主的・自律的に展開される知的創造活動」である学術研究を推進する。』を提案させて頂きました。直近の計画として、PFリング高度化（PF Upgrade 2020: Renovated Multipurpose SR-Ring with Only One and Number One Beamlines）に加えて、開発研究専用ビームライン（Hard and Soft X-ray Beamlines Dedicated for R&D）の整備を検討しています。

学術施設における開発研究は、利用者と施設スタッフが共同して進めることに特徴がありますが、広い分野での利用が期待される開発研究については、PFとしてのプロジェクトを設定して推進することにしました。これまでに、PFリング高度化との親和性も高い「3次元X線ズーム顕微鏡の開発」と「多目的軟X線時間分解計測システムの開発」の2つのプロジェクトを設定しました。次段落で述べる運転時間の確保が優先であり、最低限のスタートアップ経費しか用意できていませんが、両者とも、2-3年程度の期間での実用化を目指しています。

開発研究を通じた人材育成や先端基盤施設としての多様な利用研究の推進には十分な運転時間を確保することが欠かせません。特に人材育成の観点から、安定した運転が保証されていないことは、極めて重大な問題です。私の前職は大学の教員ですが、学生が研究室に配属されてから学位を取得して卒業するまでの期間全体のことを考慮して指導にあたっていました。予算不足から運転時間が削減され、10月になっても年度内の運転が確定していないような施設の利用を中心とした研究テーマについては、回避せざるを得なかったであろうと思います。開発研究も含め、新規プロジェクトを推進するための予算が競争的であることは、過度に競争的でなければ適切なことと思いますが、大学共同利用機関が運営する学術施設の最低限の運転時間を確保するための予算については基盤的（固定的）であるべ

きです。PFの予算も10年前までは潤沢であり、削減の余地があったのは事実だと思います。しかし、PFからの説明が不足したために、最低限の基盤的な経費までもが、誤って削減されてしまったものと想像します。適正な予算への回復には時間が掛かるかも知れませんが、現在、関係各所に丁寧な説明を行っているところです。

次に、放射光共同利用実験審査委員会（PF-PAC）の報告をしたいと思います。PF-PACは、物構研運営会議のもとに設置された委員会で、現在の委員数は、機構外25名、機構内12名となっています。名称からも想像されるように共同利用実験の課題審査を行います。これに加えて、「放射光を利用する研究計画に関する重要事項を審議することが任務として規定されています。したがって、PFの利用プログラムの変更などには、この委員会での審議が必要になります。従来は、年2回、課題審査の時期に開催されてきましたが、当然、課題審査の終了後には、重要事項を審議するための十分な時間は残っていません。今年度の第一回の委員会は7月25日に開催されましたが、その委員会において、2019-2020年度について、年4回の開催とすることをお認め頂きました。ビームタイム配分の公平性と透明性の更なる改善、課題審査における関係者の負担軽減、PFとしての戦略的な取り組みの推進などを目的とした制度の整備・修正を行っていきます。10月2日に開催された第二回の委員会では、具体的に、利用プログラムと審査方法、分科会、旅費支給基準などについての意見交換を行いました。今後、見直すべきところは見直し、残すところは残すための検討を進め、次回以降の委員会で結論を出していく予定です。

最後に、PF研究棟2階エントランスホールの什器の更新と1階ユーザー控室の様様替えを実施したことを報告します。利用者の皆さんに少しでも気持ちよく過ごして頂けるように、少しずつではありますが、環境整備も進めたいと考えています。ご提案などありましたら、是非、お聞かせください。